
リボン

芸熊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リボン

【Nコード】

N7491M

【作者名】

芸熊

【あらすじ】

お題SS

お題：リボン

ちょっとしたハートフルストーリーのつもりです。

・・シユル

さらりとした音を響かせ、リボンが引かれる。

「いらっしゃいませ」

「このユリを一輪」

「ご贈答用でしたら、お包みいたしますよ」

「いや、良いんだ」

スーツを着ている精悍な男性が真っ白な美しいユリを指差していた。

私は笑顔で返事をし、ユリを手渡す。

そのお客様は何も飾られていないお花を一輪だけ受け取った。

「今日は妻の誕生日なんだ。何を買っていいか分からなくてね」

「それでしたら何かお作り致しますようか」

「ん、いや。それじゃありボンだけ飾って貰えるかな」

「かしこまりました」

私は引き出しから、既製品の針金で止めるタイプのリボンを取り出した。

「こちらのリボンでよろしいでしょうか。それとも結び方をお教えいたしますので、ご自分でお結びになられますか」

「うん、そうだな。自分で結んでみるか。はは。いやね、昨夜ちよつとしたことで喧嘩をしてしまったんだよ」

「そうでしたか。少々お待ちください」

私は薄いピンクのリボンと赤いリボンを適当な長さで切り、一度奥へ向かった。

店の奥には入荷されたばかりのレッドローズが積まれている。その中から一輪、なるべく大きい蕾を選びお客様の元へ向かう。

「こちら、私からのサービスです」

「いや、申し訳ないから受け取れないよ」

「奥様と仲直りされて、気持ちの良い誕生日を迎えていただきたい私の気持ちです」

「そうか、それなら受け取らなければ失礼だな。ありがとうございます」

先程切ったリボンを手渡し、結び方をお客様に教える。

細い針金で茎を傷つけないように慎重に二輪の花をまとめる。

その上から二つのリボンを一周、二周巻きつけ、ピンクと赤のふわりとした蝶結びをする。

二色で作られた大きな蝶を作り、その内側に更に二色の小さな蝶を作る。

「お二つのリボンで、お客様と奥様の仲を結び直しましょう」

「ははは。でも蝶結びだと簡単に解けないかい」

「ああ。そうですね。気の利いたことでも言おうと思ったのですが裏目に出てしまいましたね」

「いやいや、気持ちをありがたく受け取っておくよ。本当にありがとうございます」

「いえいえ、こちらこそ暖かい気持ちにさせていただきました。ありがとうございます」

「さて、ではケーキでも買って帰るよ。いくらだい」

ユリの値段をお客様に伝え、会計を済ませます。

- - シュル

リボンが突然の風に煽られ、その腕を伸ばし私のお腹の辺りをくすぐる

「もう少しだね」

私はお腹に向かい話しかけた。
内側から軽い衝撃がお腹を突いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7491m/>

リボン

2010年10月21日23時27分発行